

Q1・目指すクロッキーや憧れているクロッキーは、どのようなものですか？

線と調子の抑揚がフルに提示されたダイナミックな作品、そんなクロッキーに憧れがあります。ダイナミックというと安っぽい表現ですけど、『力』というかエネルギーを閉じ込めた作品、抽象的ではあるけれどそんな作品に憧れを抱いているので、単に手先だけで描くのではなくて、手首と肘でタメを作って、肩で力を解放し、腰で解放された力をコントロールしながら膝でその力を受け止め、足首と爪先でまたその力を跳ね返す、そんな全身を使う一連の流れというか『波』で対象を描いたらカッコイイだろうなあと思っています。

Q2・クロッキーで大切にしている要素は何ですか？

対象を想う気持ち、愛情です。

Q3・何分のクロッキーが好きですか？また、時間に制約がある事には、どんなメリットがありますか？

最近では短ければ短いほど好きです。成功するかどうかは別にして、時間が短いとモデルさんがとれるポーズに幅が広がって見た事のないかたちが沢山描けるので楽しいです。時間に制約がある事で、自然と仕上げる意識が働くのは、いつまでも遊べてしまう普段の絵を描く状況とは異なって、絵を仕上げるという点でメリットがあると思います。また、時間を意識する事で時間に余裕がある時の普段の行動とは違うアクションができてしまうのは、自分の想像を超えられて、とてもメリットを感じます。

Q4・画面の大きさの好みはありますか？理由があれば教えてください。

しゃがんだり台の上に登って描くなど目線の位置が変わる事が無ければ、それほど画面の大きさにこだわりは無いのですが、今は木炭紙サイズの大きさが1番描いて心地良いです。全身を画面に入れるのが目的では無いのですが、このサイズだと自然と全身が画面におさまりやすいんだと思います。

Q5・クロッキーの描き出しはどんなことに気を使いますか？

明暗です。

画面にボワッと像が浮かぶようになるまで何度も対象と画面を目で行ったり来たりさせて、ボワッと像が見えてから描くようにしています。

Q6・クロッキーの終盤にはどんなことに気を使いますか？

見せたい箇所が描けているかどうか。見せたい箇所とは部分的な事だけでなく、全身のムーブマンだったりもします。

Q7・クロッキーをしていてどんな時に慌てますか？また、どんな時に確信を得ますか？

ほとんど慌ててしまいます。淡々とかけた時は、不思議と気にいる作品になった事が無いように思います。

確信を持てた経験は少ないですが、描き出す前に『なんかいける気がする』と漠然とした自信を持てた時でしょうか。途中まで楽しく調子良く描けても一つの行為で一瞬でダメになってしまう可能性があるのが絵なんだな、と楽しさと共に怖さも感じながら描いています。

Q8・動きのあるポーズと静的なポーズどちらが好みですか？又は好きなポーズの傾向はありますか？

動きのあるポーズが好きです。ひねりがあるとカッコイイですね。

Q9・手に取る画材によって、描く対象の見え方は変わりますか？

変わります。画面に画材を乗せた途端に見え方が変わります。画材それぞれが、自分が観たいところとは違うところを見えるようにしてくれてるのかなと思います。画材の違いで、同じ対象でも新しい見え方や発見が増えて面白いなと感じています。

Q10・クロッキーとそれ以外の作品との関係性をどう考えていますか？

僕にとって、とても密接な関係です。

絵の描き方はクロッキーを通して学びました。技術の向上という事だけでなく、モデルさんと対峙する事で、描く対象と真剣に向き合う大切さ、生き方をクロッキーを通して学んでいると思っています。普段イメージの世界を描く事が多い自分にとって、自分と向き合い真剣に自分自身を考えられるようになれたのはクロッキーのおかげです。